續滕栗毛五編

上

へ遠13
1164
32

へ13
1164
32

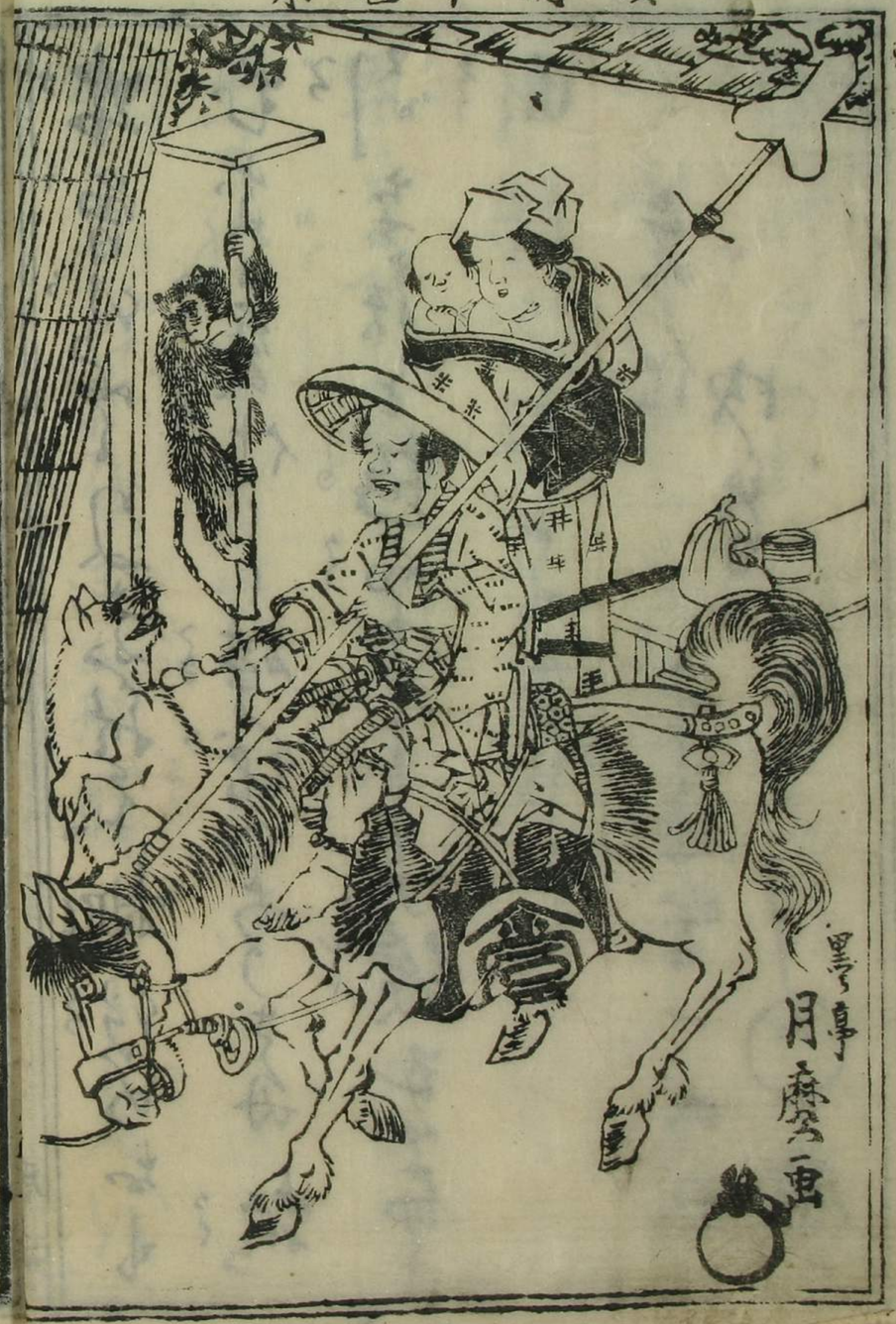
海野信盛蔵書

續膝栗毛叙

反古乃梅が家ゝ
ほゝぎを
ぞんろ
弟子身ゝ
ぞんろ
ぞんろ
ぞんろ

樹陰石のたのゞ
しゝ傳ふる丹土く秘
法ゝ風なしなゞ三言葉都會
異なる事ゝ雅言のある事
共の稽古も
そゝ岩角御嶽驛

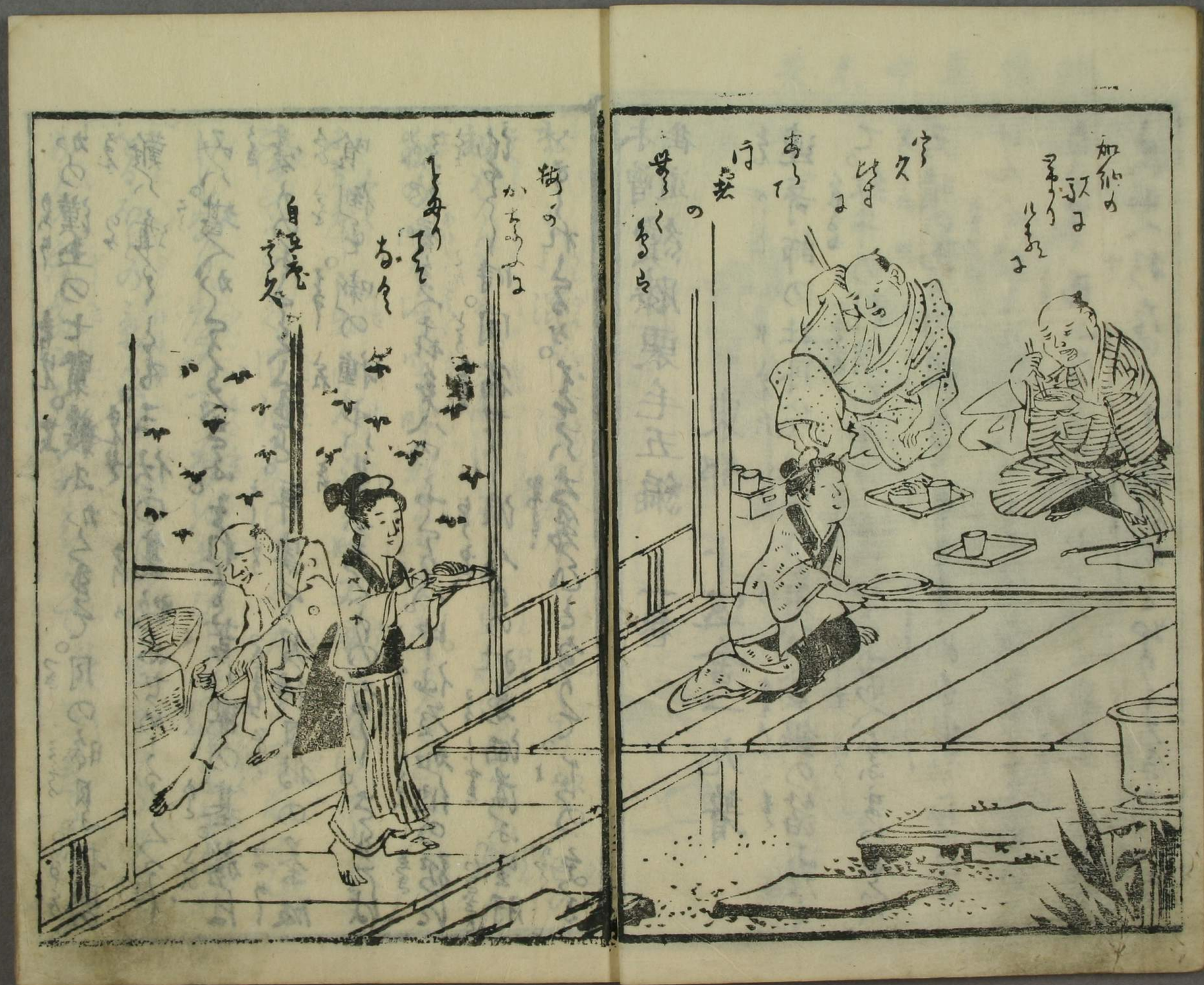
岐蘇驛中花景



木曾街道續膝栗毛五編　上卷

東都　十返舍一九著

連哥師の牡丹花八。牛の角紙金銀の箔ふだを
て。紅井の引綱をはけ。中のおよぶ所へ。ふまれ紙。
天晴の出〳〵顔みて。見を奇妙面白樂と。ひらう
けん。今時そんな。まハり合紙せなどとよい者の
きてこまく。馬ふなりと。駕ふなりと。飛ぶして。ゆき
よの所へ行たの〳〵。旅行そこ切り〳〵ろきのハ色。



かの漢土の七賢。藪ふかくまそ。月の晩ふ掛聚の
難八道ゝ。三伏の隻蚊ふせめゝくゝ。
みハ。墻くがゝゝぐきふ。をれも苦ハ樂の基。旅は
憂ものふゝくゝ。年寿て月待日待の茶飯
喰倒を。噺の種ふ為くものゝ。さもてば
弘法神多人ハ。中仙ゝ加納の郭に
酒ゝ時。同宿せ浪人ものゝ酒落ふ生肝
をきれゝるゞ。ゝゝハ大多ひとゝて。和のゝる

寺でもまゝ混ゝ。酒級かハして居ゝるふ世の
刹ゝよるゝ。大風後出て車軸ゝるゞ。漸く
和の明る頃。空晴かゝるふゝびてゝくく
ふゝ変ゝ出ゝる時。又俄ふ降ゝゝく
こぼゝぐゝく。風ふそゝげゝく大ハ園薮ふひと
ゝくゝ。庭の下草紙ふひゝぎ結ふをも
るゞの弟子ハ。なゝく出ゝゝゝとて
あとの産業ふかゝゝなゝとて

はきまうら稲八。ゆふちろと又人合せよるろ。此八「八ゴフやもむさ
ちふ。何ぞ。四面じゃ出〳〵迯稲くの あいらく「ちぐらく
の間待なこと〳〵ちハぞあせ。ケアの氣がりあもと又
乘ろどころふろ〳〵 為に待合してゐめあア たの〳〵稲。
ち間のふひと稲いりやろう。ゆふぐハさろちり稲ちん
どろ〳〵トちぐふあるふとん引ちろ。稲氏「コリヤとんどめふあるハ
ちろうとちぐふ稲ちける
トちぐと八百。ちろうゆちう。ちぐちろうあ 此「ちろ〳〵ぐ稲く かのちろ
やどども。面八さ〳〵ふやまぐりけま。
ひと稲いりやちうちぐ。ちぐトちぐ〳〵ひきうせふちうとちぐ
ちろ〳〵ちるが。稲ちとも色ふちろ〳〵と

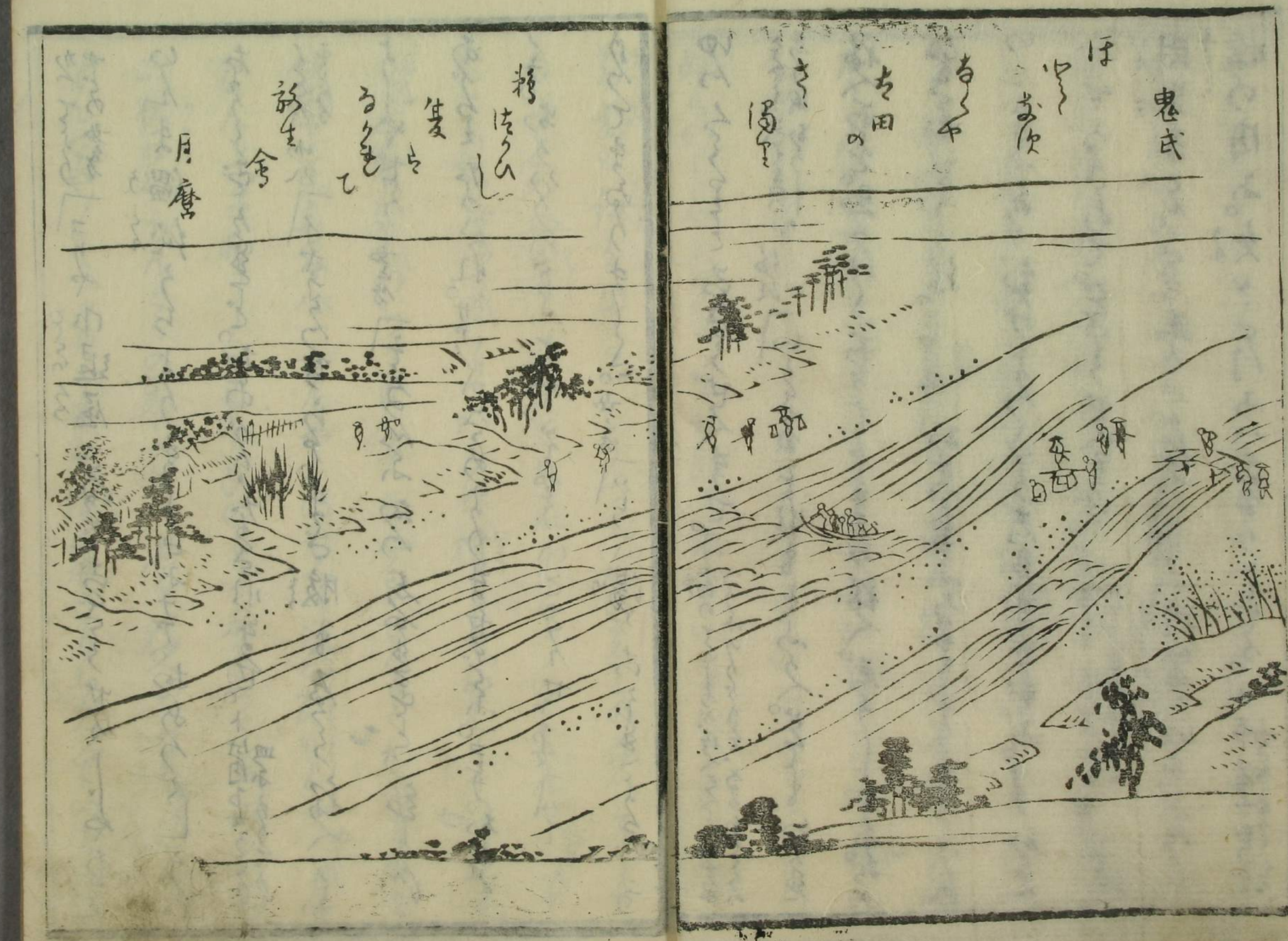
きまく〳〵まどろとてあるの間。面八やちぐ通どちる川どあるうと 稲氏「コリヤ。
ちうちうのの。ちあ氏ちうる きく頭をちぐ。
表ちぐ八。おきろく。ち変が出ちぐ川がちまろちとしふ
ちぐ〳〵此「十二ちろちの刑の面ふとまるのの。ち日和ふ
ちろア。ちろ〳〵出ちけやせうト ちぐちるちう。次の方れ
稲氏「コリヤ分でちうん面で。よんこあサア出ちぐん面ん
あんちふちぐ。きせちちのいちんぐア此「十二廿かちう
ちぐア稲。おあんぐちぐ出ちけちのせく川がとぼちぐちと
いふハ。ぼの手合ち。稲儲ちうとおあり。ちぐち

くるものどもある。国者「コリヤ分ア そのぐんぐ。あんまさち
も出来べんたち。こりゃどもを分ア。国者おいぐぐんサナく
出来なさろく〳〵ト。「これハ」
あてぶろて。いぐおぐさろせぶとあのふてろ。まんざ川ハ
あの出花じや。ゆろくてろとおぐさろせくませや「十二」ろ
ありける川がとまろくさて。きろいてちゃありやをめへ。
「インヲ」おぐぐんろでや。はさきの渋ハ高ぐるア
鯰川とろふ川の堤ぐ出れろまして。糸抜川の

橋ぐおろてナア。あてをたて変なて。ぐろとあぐふん
ぐくに出ぐろて。まろぐなろ住居ぐでけぬくのと中ます。
さろのふナせぐナア。こりゃどもが多ろぐ。おくめナて
お茶代でも。ナ清ぶと。おぐのてふおぐ〜めー
ます。ぐろぐナア。ますでや裏利。そるのるちくらくナて。
まんきとお客様ぐて。おくめナをとハまるぐぶナア。
ちんであらうと。ぐろるふたさん。川向ひおよまあ。
ぎでろろぐぐお旅人ハ。ゆとりもおぐさろせんじや

あるふ。あがひけよんこそ。いんせふ 誠してでざ
せるもの。その しるが あるものて紙をとるせんこそ。
きふ はとぞろておざ〜せんせ。一時こそふ 出さ
とて。どうふ あるまつふ。学 あるもうこそせて
ナ。ろうこそと 息はきてるぶ。 結 義やせるもの
なるひで あるぞふ。そもきんか出るるものでけぬ
くふをとうつ。いざうせとやりやとるすが。いくて
ぬるいしやおざうせぬう。ゆぞいるるいやせぬ。

ゆうくこそとおさうせんせ。ト 御のてのしるが はくこそとあるや
ぶうふのうがきて。ろうあざくろ
ろうあるこ。 後 「いうこそ
ろうあるそれもそふく。そもいくま
稚人あを。出うけこあがたどまら稚く。ろうしこ今ゆあが
ひきやせうろ稚。ろう。 「おそ乳ふるうろうきしこもの。
いんせふあがあけようろこそ。ア あるん
食せうきこれて。ざうせんせ。ト ゆうこそ。 「中八 ヨリ ア
因果ろうこが。ろうこが稚。 「川 ろへいが。ごんく
懐の内ふ。欠ゲこ内あへあるりそそる。ト


惠氏
ほ
ゝ
ゝ
ゝ

かつてこうゆ「コリヤ此退屈さうでおざこうせうしどやある。
やどの女房
いんま温紙うちようきしこまなア。おめづらしうふ
ちうこうぎとこまでど。おあがり。なさいませ。ト箱屋女うどんを
出ありてあつ
ちこびやハ「イヤこうちらア。まご脇も取こう稼へこう。
よしやせう。女房「そるゆふ知つちやぜと。知とり
あがるとなされ。サアくさめこうりませぞふ。コリヤ
ノウ。ちうこうふとふでや。そうやういこさうれせ。女「ハイ!
ちつてまありまし。女房「ソレ〳〵湯がおわまこうふ。そ

ゑ蕎の細をひきづこうみて。かのこのこん。そこて
あるこのおん蕎がはけてなん。そうやうこさんせ。女「ハイ
見でや。女房「そりやかこげ様ぢや。かこ〳〵のこのぢや。
「蕎ハこうちがあつておやを。せうこくかこさるの
ひさこぢ。ちちハ一ぜんやこうのせトふこうをを少「コリヤ
なんぢ。そおこうるあわひのまるちこぢ。モシかこさん
代物ハ。ちんこうのちこぢ稼へこうぢ。女房「ハイ、
なんでや〳〵。ヲホ〳〵コリヤ。段梁こうちぢへていこうさと

のじや。小八「エヽ左程でひとくちやくそうもねがふまいたのぜ又かえらうと。ちくちくと百遍さうめいど

如房「ツリヤ銅壺のうへあちや。ふるまいがかけてありようまいそふ。かうねそのようりくもそなり。かまどのねきかあるよる。おそくらう壺ちんで。来よろこうめでおざうませう。コナヽくおやかくのう。そちの物ほかえぐろかつと渡出ていとさんせ。小八「エヽコレおそくらうじやア行くのふ。如房「ホンニふりしやく。ちか「ハイく

いんまあげませぐそふ。かうねこうりのあるち酒をナア。ヨヽいんは。うりおとねてあがりまうこふ。如房「そうこういんまあこんてめてあこうりまうこふ。そこ門ア。そのおなぐろ法けてあがりなされ。小八「さんざこ流いふ。ハヽヽト。如房「ドレくまくまくらんなせ。小八「コリヤ「向くあ。如房「あのひろあがりなされ。ト小八「ガ。ふるまひ〳〵さうのうへ。小八「エヽのりくへをもせうふうちあける。そんなふくをもれるめのう。如房「ハテそるのふおうちあ

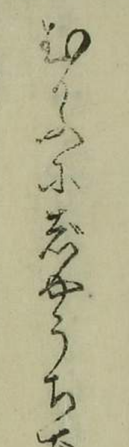
ぞと。たんご。めのひとろ。トだらやくちやのひて。ちりふたをねつけること。
ちやあんしやくをかうこと。
（十二）うきくさ移へめの紙。鍋を出してくらひたるがら。
トぎ
鍋義をしてはきまるものうへ。めふ古ぜんくらひやせう。
そこへあるべちろ甘へ。トうどんの皿をあるべさせ。一ぜん十六文のつめ
ぜんて鍋をくらひ。ぐでんのうどんをくる。
さきへおきまけてきまふと。かう
かうきのをつぶして。
コりやなんでや。ねぐいてすなさる。
トあきれえろて。
ぐまたくける。
（十三）鍋さへたくやア。ちあいあるめへ。あどの
あめ。亂性ぐ。あんはりふられよし移へめをうるく
はきまがたくら。はきくりぐ。トあるりきつていふふ。ちあいはまりのさくらよ。ぜんと。そうノい
こそそりこそと。はかさはくよ。
あるくらくあんの見をさるして。
（十四）やア。あどの。
ぜ。ちあ。
ぜ。ちあ。
ぜ。ちあ

吉の山の
長ちゃ
ふふよ
悪さろし
ぶんうけて
えもあ〜ぞめ
緑亭の山

[illegible]ら[illegible]のゆくさきのてんでやア[illegible]の
く。[illegible]なんのてんぐ。川をきいて。[illegible]て
[illegible]ぱりなんざハ。だりくしい。[illegible]
通りて[illegible]川をつ。[illegible]出やうぶ。[illegible]ひろりくらのぶ。
[illegible]ハ[illegible]。いめ[illegible]。うどんざけ[illegible]の[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]。[illegible]の[illegible]
めつ。[illegible]
めが[illegible]の[illegible]。[illegible]

[illegible]ふ[illegible]。[illegible]ふ[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
川[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

あい宿あ宿号中せう。少将屋といつく おさう
せへきせ。おもむろに なぐるく 仕紙状。をこなてくなのち
なくさりて。加賀の糟田やうらうさとあつまれば。
のりふ ぞやうちでざりまも。ト
仕紙をこうめ〜こうせび。仕紙をこうめ〜こうせび。
こうやてをいうそをこうちいづるこうとて
いけもせぬうぜんやうにちあるうをて
一たいくうとうおうれ 川どうん
ト いく 郎の皮ぐやうやう 極へる。あんうぐあるうう屋号



さる宿。どのせいくらやうあるめへ。そしてあのう紙
とんじめふあるせやうぐうこうふ。仕紙を屋て
へまるると。むーのつ。ひきやぶうて右をふ。ト右の状の上白
ここそ。中の文をよこして月に沙汰。女の文体。
女郎のうぐけ みふうじ まめくあり。
「なんぞく。」少
きうある門ぐるる。ハアこうくハ女郎の名。「きこへ」
仕員の 出行やといふ。夕アあのうぐ酒つて宿の宮て。
別深の女郎のみとこへへ。それを屋させやうと。
いく宿の男号さるもそこ。おのうぐ紙おさそふ

ちゃぐ。みゃ仕させやうとて。虎の皮ア輝ぶ。
どんなことが書てあるか。こんてやらう。「イヤまり」と。
封紙きるぞふ。垂ろせて。ろちが見で紙匂ありや。トあふ紙ひろころ。ふところへ入ぶろ。此角むころ。この四角ぶし。
なくぶろしや。七八人ばな。中あるとこ千ころの紙仁張ぶにあひろこ。
「モイ。コリヤ」ア。あんあやさ。おこ事やうお出事やうこ。
ろーどのく。ぐろ。ぐろりぶ。け出て。あわが痛やのぐ。
めふはるろるもて。あぐろけこめふあひゃこ。「ホンニ」
あんぐこ。ア。ひとろ痛ふとゆろこ痛ぐる。おこけふ

さんざめふあひゃこ。「コレモ」ア。あんる癪ろ。
びこちんだいどア。四サアでい。ふとふ。なぐきサア。
ぶちあげさせべいこア。おりハなん。きぐむここア。ころ
ちろてもあやさぶ。神事ありぐろろ子出るのウ。
中こ。「ホ」ニふて人中ちこさ。ろちこも。掏をさころて
掏人中こ。トはこるーの肉。釣ろる人村とのあふくる。こふ。ちろぐちぶ
のぐきこれば。きこうこまろふ三みせんさり。
「いさア」めの。神事成
まこと
事ものよ。「モイ」チンツル。ジャこく。あろくる。あろを。「ヨイ」コリヤ

さらうてく。チンチリ チンく ドンカラく ドンドン モイ

ちゝ敷ぶち めさるふ。ちくとあのさゞ同ぎまそだん。

なんぢやく ゆーのぶちするこゝサア。あんでおざる。

コリヤ ちゝ敷 イシヲ。そのごんぐう 写するこゝサア。

あんごうちふ 高く。コリヤ皮でや。馬皮とのそたろく

ものでや。一度とらひめさるハ。あんのこゝ馬の

うのでや。そうちのゑ。かんく 写するこの皮。

あんでござる。ユリヤ大皮とのそ。大でや〳〵。

あるゝとうの。ゆかハ黒ハ黒ハ黒ぶゞの。コーたの。

四ツ足でハ。おもの こゝ。ゆたりおもといひもとぶ。

ゑのうしやゞおもの紙馬皮。大を大皮とゞ。おぐけく

こんぐゞ。ゆ まのうハおのゝうんこ紙いふ。サア

ふんきんいうの。コーどもをいまそべん。馬ゑコレ

おもんくち。特沼まで。やこうしてのうまの。あん

ど。ゑ皮ふ。の 毛。やしハアコーゑ皮サアハきこんぐゞ

ゆゝ。紀州熊野山行者ブウリ。

トんのあるこのをふまえて、雑人くふ家を知ふ。
まちちのくまもゆくふまえるを家をまてこの日来

ワハハハハ　あんあやさ
さち。ゑゑゑさち。あんでもハア高つ〳〵しやア。ふとふ
めサア業うぶんと　おりやア。　年のくれぎやうしよ
どのひとるが。西風ごさまぶこアア。ホヒニうこうるげこん
ごアり。　ハハハハ　おめくハきろん。　絹とろめがとまき
だる。　あふふ。こ〳〵　四サア　へのこうやげふ。あんでも
ア。　他国の　絹のウおろく　とろその。　ゆるべんとふりり
てのあんごアり。　ト　年内　年暮せといふあるやうるこづけの
りのぶろあそこそこそもるり。　ちやなまあり。

年の暮ヤ　千月

年芳

汚の

雪の

きえて

後

名物　あこうばこづけ

「ちゃ」「ぢゃ」の違ひを覆ぐさう。新ぐつるくるあさ。
強法さん。いつそいやぐだい。「それ」「いつさるるーるらう。」
ちゃ多く強法さのり。「ぢゃ」酒をちつとだらう。ぢゃ。てんな。
「ぢゃ」分ぢるだいさ酒のこんでおざろう。コレヤコレ
どものの興ヤケでハ。大根といひやそだ。ぢゃ。ぢゃ
あんといひめさる。「コノ」ちるつぼけのるく。「ぢゃ」
大根ヤるつ漬といひやそだ。あんざみかんざのと
いふすぐ。でかく遠ひやをるよいく。「ぢゃ」

さん番いちんぞありやのさろ「ハイ」とう屠の菊ろ
とのだろーになりちりちまーと「そんなる」を
一ぜんづ出ーなぜ。「ハイ」くらんやあげやを
ぜふ。「ト」ぜんろーふろの見あるのの見ぶどろふの間をりのるのぜん
のうてのぜてあち見ろ。「ぢゃ」ぢぶのうのあをあるーるー
「ドレ」くぜーめるあろ。そいくいやのちさっモシおあく
見いぜーぐ。「あふハヤ」。ヨそーぜもい隙紙ぐヤ。
「ト」箇ぜろーやどもろ。ぢぜさきふある。ムそーとろて出くた出。
その中ふひとり。ようかんをくあをおぢろくて。「いりヤ」
あんぐんぐん。「ようかん」といふあさ。「あふヤ」

ようかんとあんのこんざや。「学」少しでもしらくるめでようかんといのやと。「これがハア少しでござる。「あづきのことと。ようかんとひやとさらさら。「学」あるとも。西くでいのくいひやうげちがひやとも。ようちの什種をうけて居るものか。何ごとはめひなさる。「リリヤ本のかぶちのであんべい。「コリヤア法螺ものや何の角をうち毒。「学」大木の切口ふしこの根しらむと。「ハヽヽヽ

がつふちがつたたしい名でおざるヽヽア。それふアそのあいのサアあんとうの。「学」コリヤア朱猪。猪ハ朱猪さ。「学」あいのめと朱猪朱猪と云ヤしこと。ワヽヽヽト又ヽヽヽ

酒をちくとくまさろせく。（あぢ）「ヤてさるぼくろ。コリヤ
きこゝはどこがぶらつのるだい。（ぢん）（ぢん）（ぢん）いどころく。（ぢん）「何
ヤ人まさん。（あぢ）「ヤアどア。ヤ手ふまけるさろ。（ぢん）「百で
ヤくどふ。それでヤあていどやおざい。トるのそろざんが
どるがあのくふちくるるを。ヤそろふ（ぢん）「そろちやのりろ飛も。
くげて。るふつけ。
そのはてこ。ヤこへはけさろせく。（ハ）「十二ヤこだろやの
（ハ）「きづこ
風呂ヤ食ヤ。ヤんどろどよ。ヤこよ。（ぢん）「ホこ少酒よ。
十ろ文酒をヤ代やらろ。ばけていろこ。トあるどくるふ
つけさるると

（ぢん）「コこ〜ハリアうざねさとのくこ。ちくとぶちヤあて
（ぢん）「草郎
いどるころトるのこちをこちをこちを

ごろもんあしてけが我をさろせてこ。
アノ馬皮サアふぶちのいこう。あめが分大皮のう
二三丈。いがこもんかくこめんじがう。る皮うのこさま
げて　たふ馬皮ごアの。茅蓑ごアのと。そんてとる畑サアへ
かけこんごアふ。ユリヤハア。あんちんをごいとあひとろ
ても。ま〜ちくこと。ちうべいサアふ碎ちやア居ーを。かがら
ねおうまちて　奥畑走のう。大米の　切ぶとの根サアへ
ぶうはけやて。朱猩朱　猩猩がるぐをヤスハ。あんてとる分

茅サアあんべいるー。然ば山の祈番ブウ引。
あのいふさうぷうまうを　イヤ　ぶちうぐんな人ぐ。
何ふーう。ア茅でもはけるはへ。こぐるる　怪我ど。
きうんこうア稲人いるしトこうぐにうのうとしてやう。風ひりどちが
ぶちをるもあぐあてたうりつ　ぐうんーしあやう茅るどをはけてきを
ぐうあちつきたうふぶ木夫かーく。
かちう麓の馬北　ようるま　をちうこちう
ちあ門　茅ちるるん　稲あけー　牙を
此一貫ふ茅ひと　ちうて。陽くこをを知るるふ。

古報
うけ
きけん
あって
おそれ
馬の
高らか
人を
ごんと
おしもて
機嫌よく
金ぬ

うの親仁ハ星をいろ〳〵見るゆゑ。まち〳〵馬ふ
のせて出るける。浦ゑ郎表ハ。そろ〳〵ふ先く
ゆきりこ〳〵たるふ。飛脚屋の男ひとり。ゑとり表
かるる。「モシ」今時我をさん〳〵ハ。まちんぐ〳〵あかる
る。「ホヽ」ナニ〳〵でも出ぎりやせん。「イヤモ」あるこ表や
さるい。さらとこ〳〵ハ馬屋表楽せんハる。「そりさ
あめ〳〵ごこで。「コヽ」やゑ表ハ。「タアハ」どこに
あるこ表ぐ。「ソリヤ」今軽さるこ〳〵ハる。

とるうも極。表中でハ何里ぐらゐ表ゑるさりこ
「世里」あまり表とるこ〳〵ハる。「イヤ」あめ〳〵ハるこんぐ
「早」見ぐる。「なんの」ハ表。きのふハそんなまろちゃ
なんハいる。表をこ〳〵て十三里歩行で。大坂くいて
ち。角の茶屋三幕ゑど「ゑ」おりてかゝる。昼
のハい時ぐ大坂を出て。日のくれんさるふ。ゑるよ
まで表とるこ〳〵ふ。極こ〳〵あるきたるこ〳〵で。あるさり
極てとるてる。「ほ」ハいどう〳〵ぐやハいる。

ナニ　そのくらゐのこゝハるんでも極へ。どろぼうも出
るものだ。さのまへ伊勢へ七度熊野へ三度。ゑと
日ごろふしぎなるものがありやした。
リヤ　さひやうも
なん。どろぼうのやうにそのやうにあらう事まつしよ。
ナニ　ゑゝ断捕物を商ひてのもと。寿ゆふ日ごが
たくるやも。
そのうつる。こゝや章駄天さるの
まりのうけてとる。見ぐるまいさるの。乃つまぐるまつて
退屈じや。おまへのぐさハよりの左づも。たゝしたゝ

よろつ　まるよ。サアくおもしくト　男さぐ　ぐるくゆくれ。
ざろ　ゆくれ。
ゆくれ。大きく。ぼぐつてさろくゆくれ
ぐるくのようあしにおとしと。おちるふ。ふろしき
づゝをつけるるまおまもどろくくと時間をすぎて。十間半ゆき
ちる時。
ヤ　あのひ知
しさるぐある大変。
ヤ　馬に付けて風呂敷包のるよ。
ヤ　ハ　そのこ。
物仕事できるめくさるぐさろ。あのあくでおろくさ
のものであらうふ。コリヤ仕まらう極。サアあくさ
なるめくト　あくハあるさ　まろくさんがらろて
くもものせわ　ぐるくやれぐるり
ヤ　ハア

ゆーこらやアあーこのこあゆくサアで。おまうこーこがでかく弱
ゆーこふ。こあゆくいぎこるこ。門田屋とこふ茶屋どのふ。
ふ弱ーきのうあづけてあんべい。コーーどもハ生くいぎ
こるこ。（幾）アイおせこるこでおざりゆこ。ころちらアツイ志
れて行鍋ゆーこ。トけどころじゃどこふこるこで。いちゆくこんふ。物広
のーゆくうどこ。西のおうどこの門田やーと
いふを云 幾 モシ おめくの西人。同者の義ハ法けて
来こ医士ガ。風呂敷包紙。あづけておけハ。せこんさ
う様。かど屋の ハア 茶こんガ。茶こうい。茶ぐぶこうこ。

家ろて。一時茶こんガ。こ紙さぶのてあるきよりさ
ガ。ごぞこうせこぬりんじゃふよろて。コーーー西人。あづけて
おうぞこいひようこぶ。イヤ人さるの荷物。乃遺ガあり
ようこ人るかーぞこ。コーーー西人いひあるて。内へ入りて
いふより来ーこ。（小八）こんなう医士どのこうちハ。
来こて。おゆこう。こ（小八）アイけ。ゆーこ和ーこ。御田茶屋。
ので
腫れーいこ。で。茶こ
こ。こーこ武里さこ人。こりにいうゆアなこう様へう。

コリヤ法華ゝ経ゝ。どんざるぞ。「なんぢやうちやう
て。ちやうひなんぢ。ざるのちやうて。あのざるな。」「イヤ
金毘羅のおまつりや。仏壇に羅漢のあるや。」「ある
ゝ。うちのてハちやうがなくて。あのどく物ばかり。」
「どうふ法華ゝ経ゝ。」「どうふ法華ゝ経ゝ。」「なんぢやうちやう
ゝ。」「そんなら。どうぞ。」「ぶつ。」「そんなら。どうぞ。」「ぶつ。」
のこゝろ。「トてそのふくろのうちひ。袋をつゝむ。ちん出る。書文。ちんぢやうとなり
壁物乃化たるうと。ゆめのゆめなる

とうとうこれ。ゆうこゝろ。結社。ゆうこゝ。我
ゝ。ようこゝ。いちれのぐて。立物しぶ。猫果。宴をゆきうる。用。結合中
ゆうこゝ。ようこゝ。ようこゝ。ようこゝ。いきたるうどふ。かちゝ山村の
紀。高坂をうて。ゆうこゝ。ゆうこゝ。ゆうこゝ。ゆうこゝ。
いうる。ゆうこゝ。ゆうこゝ。ゆうこゝ。ゆうこゝ。ゆうこゝ。
赤。紀。結社。名所ふ。ゆうひ。物を
くうやうこゝ。あゝこゝ。ゆうこゝ。人年。ゆうこゝ。
方角。前の。海場ふ。ゆきたうふ。今。彩の。角より
あまして。金汁の。角伊紀。ゆうこゝ。ゆうこゝ。ハ
前の。名乃。ゆうこゝ。ゆうこゝ。ゆうこゝ。ゆうこゝ。ゆうこゝ。

芦渡ひろ乱

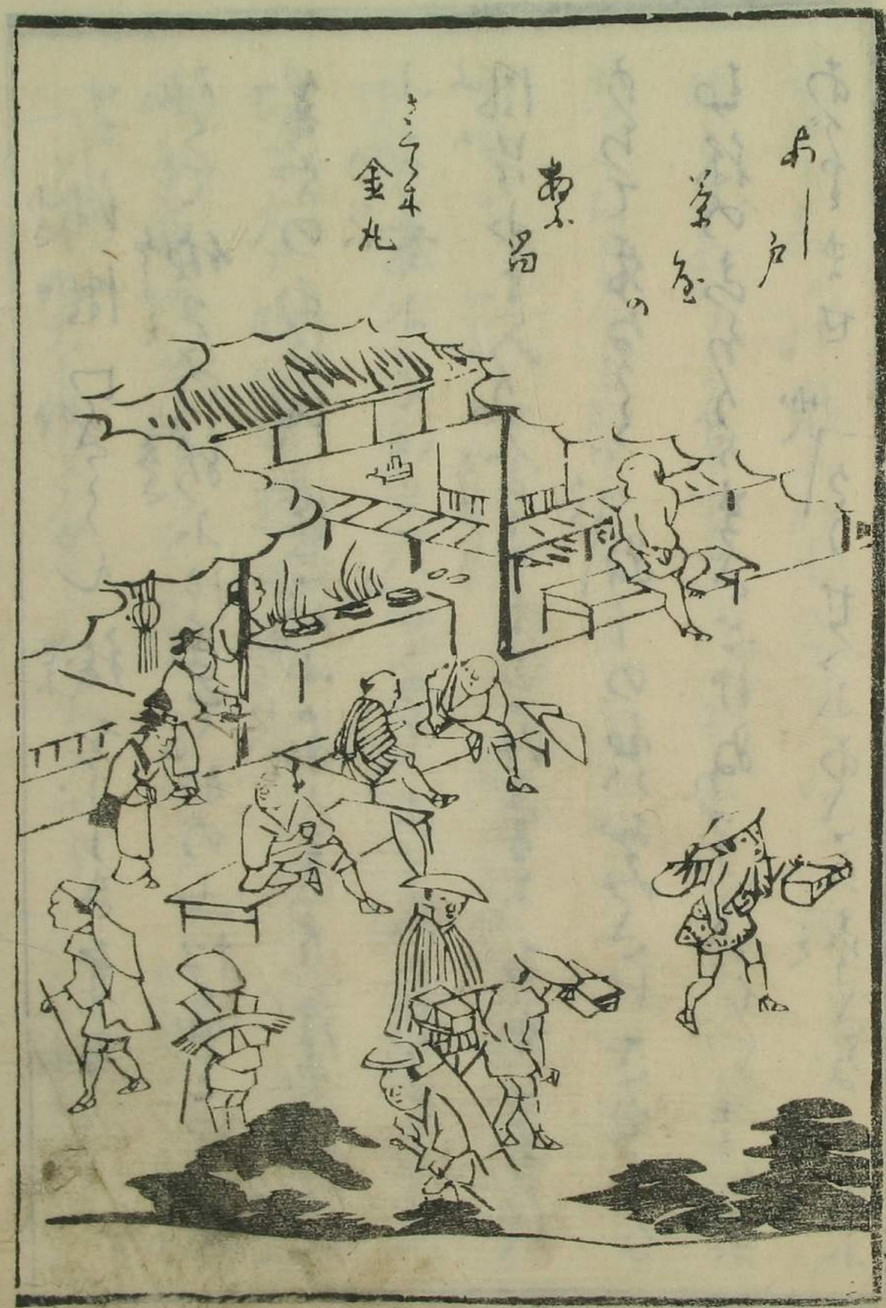
雲ゆ水

枝を

ふり切る

旅人の

休憩所



浦嶋　ワきゝん　袋をしき身ち

かくて仙人の部ふ法きて。かの山ねゝといふ籠

籠やのある紙ゝ入紙バ。ふ紅ゐる色ち産安向万塔

小寺羅ふ入ゐゆ紙バ。せでて　ちゝふ和をとりて

風呂ふ入ゝ。金ちゝよ　ちみゝるゝ。ち女　第紙

あちて　ゐるゝ。

ぬ一の紙ふみゝけ　さゐよゝる

むゐのあちりゝがきゝ　ゝとけぬ。ヂゝく　モシ　ふ柔

あゝをきせ

ゝう　せゝふあゝる　孝ゝる　ゝとけふ

如半ふ、社因ふかゝさゐゐゝ。ち女　ハイ　たんゝさ

ひとりあちりよゝるまゝと。ぬ　そゝふさゝふ　ハあんめ人

ゝ人ちゝとかゝさゐをとんでくんゐ。ち女　そゝふやゝ

ゝ　ト　ゝて人ゆゝと。ゝて　如房　ゝて考ゝて。　ハイ　ゝゝびなゝれ　ふ行ゝ

ゝ柔ゝがあちりよゝるゝ。ぬ　ハイ　ゝめ人かゝさゐゐ。ゝちゝ

ゝゝ　ゝゝ　加紙の糟因屋人ゝゐり　ゝゝゝ。ゝめ人の更

此ゝ多帝城云傳ゝて来命ゝゝゝゝ　ゝんゝのふゝを出　如房へゝゝゝ出ば。

如房　ソリヤ　ゐち俊さゐ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ

「ちめ〻く」今ふてんじまるぐらう 絵「てうりい
男ど 燒隆 雪隆 をさせうと 地のりつてう。ちこのし
ちうり おめ〻ろうう。ト 出てうりの内乃女 居りて。
そのまくうちふ〻しくかつてめうこをうかがひ。絵ちかくをねこうりうろふ。
あんのごとく 仏ちう大どうをあけて ふうふがどうりうろ ちまる。ザテ ちう〻
まうくこと。ふてうい。そうとあきかどいどころのふこを 「ヤレ」ア さんくてうでよ。
のぞきこをあ。女房 ひとうふまどをいどこうして
ちのんヤア ちのんだうう〻いぐ まのくと。ちまうう。女房
のりの 知んぶくろの 桃灯 ちうふ はる ちうて。いどの 月ふいぎ
めさうく。ちーや ア 「ちまう」 絵 のうんどーの ちう 「ア」

哭 まうちべんと おめひをんとうても。ア 幸抱 のうちそぐい
くと。かーらく 哭 ちふ 屋 ちまへ。そ 出 ふ ア ひるの ちア
おうやらく ぐんふ 身上 のうぶちこんで。あんとそ
ぐんと おめひるさる。ちげちちんふとぐア。ちー 「あお」
げいちるん。ちーあんぢうり 業 ア あうくふ 出 ちうさ
ちうのこんでや。あれ ア 主 ふーあいてきるいおのひのう
させうう〻んて。ちーおぞいことをあわせる めんさ
「ヤレ」ア かく ちまるうちよ。今 秋 のおとるりぐ めんて

おごそ〳〵せへこと毎サアよんで　ゴんるさろ。あるわどゴア。
ひるごがぶらこもゆゴア　ゴ理しゴやアござら
なん。ゴんくものくせふ。でろん丈着ごアの一。そんごアア
かゝこゝ〳〵あやアあるさんだ。ゴゝもハアこく　サア
はん出べつゆゴ。攫アでゝくなろてゐやを。だん
だあさんふ　笑ろゝ。びんろうじの。のゝアるゝ
うして。ゝ〳〵あろ　赤　綵　たごうで出ゴん　ゆゴ　ひくゴいや。
きべつことがおごそ〳〵ゐん。ゝこの「ヤレさてげへぶんろ

ゝころいふこゝゆきゝこだでこおゝどゴのうぶらあげるな。
如房　ゝ〳〵ぶちあばゝこゝあんとゐあさる。ゝこの「イヤおいろ
あろ。ゝ管のうなゝまのぞ。トおろてゝまべゝゝゐ如房ゝゝゐあゝゝぞ。「アニ
ゝ〳〵ゐ出　掛しやアゝ。ゐゝ〳〵やらくべのまハんゝ　ゆごゝ。
ひるゝふ頂て居べゝろ。トゝこの「ゴゐ少びんさきの。ゝこの「アイゝゝ
こりやあんとせる。如房　あんゝこさべゝ。ゝこの「コリゝ　ゝゝろゝ也。
如房　やアゝ〳〵。トゝゝびふつゝ。如房ゝこの「ゝゝのたんこふを
くゝ　ゝけとろゝ。ゝゝ肉　彩肉のゐのやゝきんふこゝろりの
やゝゝとひきゝけると。ゝこの「ヤレさて　ゐごゝのゆふあゝ也

ところ。そるまらぞく。「ヤレ」ア志ごろよ。さり
せん。ア志ア志ア志ア志ろせん。血ぶ多ぶをよる。「ヨー」
癪。病のうるくるろうん。そこそこそ。ア志ア志ア志ア志。
めつけてくれさへ。ト皆てらしものおやぢ。ちらふのんきく。「コリ」
ア。線消さまんでや。あんふせん。寿ものござるを。
かぶりかくせうる。女房めくをせておくさへ。おらぶ
なるまん。仲人をよび歩いて。仕代官さるるくお検
使のう。孫びひやさあやなるうまいく。ト大きおそらをこ〜ござろ

「そんるう孫ぶうくをさり」
ろうふおさくしんぼさ。
せへ。さてしでうく痛ぶまさへ。ちるりのく。「ア志ア志ア志」
うんちく
雲竹どのでもよんでござろて。療治のうして苦ひ
めさるぶようかうぶふ。「ヨー」あやも。ぶ多うちて
おざる。そんるの志ろうるうりう。ヨーア志。当市の
役人も勧めよろさめんでおざる。粹どものござる
かぶりかくまて。そんるうふ海さぶこ志ア志ろまん
しア志おざろうる。「そよいろせうや。せぶころう

女房の

ゑんぶ。四代官さま人孫ゝ孫ゝ
孫ゝゝ世る。（ゑんきよ）コレ〳〵（のうひん）能筆でや。今ハ見さゝ世ん。ト
（そう）源をとゝ出し。（そとう）洋林をゆんきし
かくそのゆんごん。（ヤレ）ヤレ〳〵（ゑん）悪ま太ゝゝゝ中ゝ云（門十）（ゝ）洋
（ゝ）林ハヤレ〳〵いゝまいまんでや。（ゑんきよ）そんでも芝ゞ
ゑけゝゆやかまごばゝゝ。ゝゝ（じま）島ゝゝてきゝゝ世ん。ヤレ〳〵
（ゑん）悪ま太ゝゝゝ中ゝ云（ふしみじゆく）伏見じゆく（ゑまちや）いのゑもん
（ゑ）悪ま太ゝゝゝ中ゝ云（ふしみ）伏見（ゑ）前ゝ（ゑ）仲間ゝ世ゝゝゝ
ゝ如房ばゝゝゝ

コレおちうのう。今のちゃめせやん。そく金ちゃどこい
なそふねこる。親音堂のおんどうのおんどをあこどん
て来ようま。そこりやそやくいうどこ。そやくく。
コリヤ
肝心の親まに。産の氣ぶはいて。浦ばもあたも
いうそくくこ。
そこでく。コリヤ仲ばちう。
ちりあげどんなあを。ほ代宮さ見へあこどちた
やま。
おきへハこしいうどこ。
そく あめこう。
いうりせる。ト肩ぬぎふ安産して。おぎちりくのこえとたた。
そりやこそ出ぬ。さんぐ見へ。おんこくこむふ

ちくる。うたちくとうふ医師。
コリヤ ハア いこどうまこいる。
ますこう。そこしもきこう。
産ぬう 煙草をせうまて。さげで。病日を縫てくれ
さのこせんこくよびふいこさまてこぶ。かいふおそく
なるこうまこ。その煙草人の産でく。
コリヤ
ここ行さ四方寺ておぎこせる。ここぶあのかこうあ
どんぶ今安産のう方こうまこぶ。おまん どのぶ。
ナア。そこ紙ぬつて ちちこ。
ハア そりや
そこなそぶ。
コリヤ

今度さけよろこびやすおぼえたのん。ひとつら
のもぞおぼうふ。手本「チニそそこそ多ぬつて右まひよりい
たく。此後ひるさ不自由であるぞふ。半一ぬ用
俵が右ようんべん右ようるあとぶでけぬつのふす。あんきよ
此俵ぬ右ようめ。縫て業ようへこそがどこるのあん
でや。手本「ホニそそこでや。ヨーく此少賛先の疫病
のつ。かぶりかそて。寳ろて紙ぬつてくまさい
せ人。門付「コレくその疫病のつ。ヨーひろひよりこ。

ソリヤアろうと右いとんでや。どこく此
病のとそくつの此けてぬつてくまさろせ人。
蓋のそそて中ろるとこぶ右ぶつてようろぞ
手本「右ようろく。その病いとろせ人。コリヤく寳
なてでようろぞ。曲アやせんうんてくまさろせ人。ト
てくものあるを。手ぬぐひ右そくるをとろせ。右ぶとちの西へ。
右こぶをのせてそんそると。あんきよしかうめんへまくりとろて。
みんきよ「ちくとみぎりのやうくようろこやうでや。
手本「そんなやうや。かうでく。門付「ようろぶく。

ト申して、そのこゝろを、こゝろ得けて、おとのごとくかぬひつけて、ゆとへ
かうやくなどをぬりて、医者八、久るゝと、武安長のよろこびふかく
ゝ、ぞこへかゝりきたりて、おもきたび、藥用をもつゝしめて、ようゝ、ごゝろ
ゆるして、ざんぎ
ゆるゝ、ほどなく、ようゝ、快を、ゑて、さらに、ゆくゝ、ゆくゝ、
ようゝ、ふしぎ、けり、

本曾
街道續膝栗毛五編上卷終

本愛

宮坂